研究所だより

第４６２号
２０２３年１０月１１日
発行：土佐清水市教育研究所
ＴＥＬ　８２－３０１５

“ あれ松虫が　鳴いている　ちんちろ　ちんちろ　ちんちろりん
あれ鈴虫も　鳴き出した　りんりんりんりん　りいんりん
秋の夜長を　鳴き通す　ああおもしろい　虫のこえ ”

『 虫のこえ 』　1912 年（明治 45 年）文部省（文部科学省）唱歌

～収穫の秋・紅葉の秋～

日中の日差しはまだ厳しいですが、朝晩の肌寒さに深まる秋を感じるようになりました。

暦の上では８日は“寒露”。寒露とは、草花に降りた露が寒さで凍ってしまいそうになることを意味しています。この時期に迎える旬の食べ物は、梨、栗、松茸などがあります。寒露は、空気も澄んでいてお月見にぴったりの季節です。寒露の時期は、十三夜といって、特に月が美しく見える時でもあります。十三夜は、秋の収穫に感謝しながら、美しい月を愛でる、日本独自の風習です。今年の十三夜は「１０月２７日（金）」です。秋の夜長に温かい飲物を持ってお月見するのもいいですね。

季節の変わり目ですので、健康にはくれぐれもご留意ください。

・・・

校内研修でどのような知識や技能を習得する必要性があるかが明確になり、教師たちの取組へのコミットメントが高まる。

(3) Check（評価）＆ Act（改善）

教師たちがビジョンの達成に取り組んだ成果は、計画段階で児童生徒の実態をとらえた測定値がどう変容したか、その度合いで評価することが基本である。その結果、どのような取組に効果がみられ、どのような取組は効果が乏しいかなどを明確にでき、それが次年度の新たなビジョンや、校内研修・校内研究のテーマになっていくのである。

そして、校内研究会で、実証的な評価に基づいて教師の指導行動や組織的な取組に関する検討がなされることは、教師同士の高め合いにつながる。各教師の学びを刺激して、「自主・向上性」と「同僚・協働性」を高めていくことにつながるのである。

おわりに

学校現場多忙だからこそ、校内研修・校内研究は、学校の教育課題達成の PDCA サイクルの各段階に位置づけ展開していくことが大切である。また同時に、教員組織づくり・組織対応に活用していくことが不可欠である。成果を出している学校では、すでに実践されていることである。

・・・